

1月は成人式があります。コロナ対策としてどういう形で開催するか、各地域で工夫がなされたことでしょう。みなさんは成人式に参加されますか？先月は、どこかの時点で急におとなになるわけではないというお話でした。とはいえ、成人式のような儀式も、覚悟を決めたり、自覚を持つうえで、重要な意味を持つ場合もあります。

通過儀礼

昔から、人間社会はある人をメンバーとして認めたり、一人前になったことを認定したりするうえで、様々な儀式を行ってきました。それを通過儀礼と言います。日本の元服や、ユダヤ教の割礼なども通過儀礼の一つです。結婚したら振袖を着なくなるというのも、通過儀礼の名残でしょう。

昔の通過儀礼には、苦痛や恐怖を克服したり、身体的な変化を余儀なくされたりするものが多いです。バンジージャンプもかつては通過儀礼として行われていたそうですし、御柱祭は死者が出ることもあっても、地元では御柱に乗りたいという人が数多くいると言います。それが試練を乗り越えた勲章のような意味を持つからでしょう。



儀式の形骸化、通過儀礼の個人化

通過儀礼が意味を持つためには、コミュニティの中でそれを通過した人は一人前だという信念が共有されている必要があります。しかし、現代は価値観が多様化し、一つの儀式が万人にとって意味を持つわけではなくなっています。すると、わざわざ苦痛な試練を乗り越える意義は薄れ、通過儀礼は急速に形骸化します。

現代の成人式がいい例でしょう。その日だけのお祭り騒ぎで、夜が明ければ元通りです。自治体からの通知だけで参加でき、特別な試練もありません。これでは「単なる儀式」です。

現代の通過儀礼は個人化したのだと思います。つまり、人によって通過儀礼的な意味を持つ事柄が違っているのです。友達ととことん喧嘩して仲直りすることが通過儀礼になる人もいれば、あるプロジェクトをやり遂げることがその意味を持つこともあるでしょう。それは後になってからでないといけないかもしれません。

